

新年のごあいさつ

農業委員会 会長 清野 信之

新年あけましておめでとうござ
います。皆さまには、輝かしい新
年をお迎えのこととお喜び申しあ
げます。

昨年は次期農業委員および農地
利用最適化推進委員の推薦並びに
募集につきまして、区長会をはじめ
各種関係団体および関係された
皆さまにご尽力を賜りましたこと
に対して厚くお礼申し上げます。

さて、我が国の農業・農村を取
り巻く情勢は、担い手の減少と農
業従事者の高齢化に伴う農業生産
力・集落機能の低下、遊休荒廃農
地の増加など、多くの課題に直面
しております。地域の農業生産力
および農業農村を将来にわたり維
持していくためには、担い手の育
成に加えて、農地利用の効率化な
どによる農業生産構造の立て直し
が課題となっております。

このような中で、改正農地中間
管理事業法では、農業委員会に対
し「農地所有者等の意向把握」「集
落での話し合いへの参加」など具
体的な役割が示されておりま

す。これにより、農業委員会組織の
活動は一層重要性を増してきてお
り、農地利用の最適化の推進に向

けて、従来にも増して地域農業の
牽引役として自覚をもって活動を
強化し、農業者・地域住民の期待
に応えていく必要があります。

昨年は、新型コロナウイルス感
染症の世界的な感染拡大により、
陽性者が多数確認され、さまざま
な分野で影響を受けております。
農業委員会の現場活動にも制約を
受けているところではありますが、
地域農業を次世代へより良い形で
つなぐことができるよう感染に留
意しながら、JA、市農政課など
関係機関と連携し、農地所有者の
意向や農地情報の把握に努め、人
と農地の問題を解決していきたい
と考えております。

当委員会といたしましても、全
委員が一丸となり、農地利用の最
適化の推進に向け取り組んでまい
りますので、今後とも皆さまのご
支援とご協力を賜りますようお願い
申し上げます。

結びに、皆さまのご健勝とご多
幸をご祈念申し上げます。新年
のごあいさつとさせていただきます
ます。

◎各部会の報告

農地部会

農地部会では、農地法の指導徹
底、農地パトロールの実施、遊休
農地の解消を目指した活動などを
行っています。

当市の中山間地域では果樹を中
心とした地域が多く遊休農地の発
生が懸念されていることからその
発生防止・解消に努めていく一方
で、市内全域において農業の担い
手への農地集積・集約化に取り組
んでいく必要があります。

農地パトロールによって再生利
用困難に区分された遊休荒廃農地
については、現況に応じて非農地
判断を行い、守るべき農地を明確
化しています。



▲農地パトロールの様子

農政部会

農政部会では、市長部局との
農政懇談会をはじめとした各種
懇談会、交流会などの企画・立
案や農業者年金の加入促進、全
国農業新聞の普及推進などの活
動を行っています。

農政部会の研修としては、国
土交通省千曲川河川事務所が千
曲川の治水対策として上今井橋
付近に検討されている遊水地の
予定場所について、現地を視察し、
農地の耕作状況を確認しまし
た。



▲上今井遊水地予定地の視察

振興部会

振興部会では、遊休荒廃農地
の活用対策、農地の貸し借りな
ど利用権設定の推進、新規就農
者の支援などの活動を行っています。

例年、遊休荒廃農地対策とし
て、遊休農地へソバや根菜類な
どの農作物を作付けし、遊休荒
廃農地解消を推進しており、今
年度は若宮地籍でソバの作付け
を行いました。

また、市内で先進的な取り組
みをされているリンゴやブドウ
の果樹園や果実冷凍加工場など
で研修視察を行いました。



▲ブドウ畑の視察

STOP! 遊休荒廃農地

農業委員会では、農地法の規定により毎年市内全農地の利用状況調査（農地パトロール）を行っており、調査後、「遊休農地」や「遊休化のおそれのある農地」と判断された農地を対象に、農地の利用意向調査を行います。



今後自ら耕作する、または耕作できる方に貸し付けたいなどの意向を示していただき、実際に遊休農地解消に向けて履行することをお願いすることとなります。

農地を貸したいが相手が見つからない場合は、「中野市農地マッチングシステム」のご利用をお勧めします。「中野市農地マッチングシステム」とは、貸したい農地の情報と、農地を借りたい方の情報を集約し、貸付希望の方へ紹介する事業です。（広報なかの12頁を参照）
かけがえのない農地を活かすため、遊休農地の発生防止と解消を進めましょう。

全国農業新聞

全国農業新聞は、農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。農政の動きや

農業技術、税制解説などの情報が満載。購読は、お近くの農業委員、農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局までお申し込みください。

一人ひとりの農業者を応援する 農業者年金



農業者の老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。農業者年金のご相談や加入の申し込みなどは農業委員会事務局までお申し込みください。

振興部会研修視察報告

農業委員

佐野 啓明

秋の日、新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中、それでも何かしなければとの思いで、市内で活躍されている企業や現地を研修しようということになりました。十月のまずまずの天気の中、コロナ対策（検温、マスクなど）をし、視察に出かけました。

最初は、信濃オーガニック(株)様で、JAS規格の有機素材の肥料を主に見せていただきました。主力肥料の「信濃オーガニックブレンド」動物性有機物質100%について説明を受けましたが、良い作物ができるよう自分たちで工



夫努力をして、やっと、果樹園などに散布して成果の上がるものになったとのこと。他には、カニガラ粉、海藻粉末、腐植酸などがあり、散布した肥料を鳥獣があまりにくることもあるそうです。次に、高社山麓は見晴らし街道

沿線の柳沢と深沢地区の果樹地帯を見学させていただきました。リング、ブドウなど十二分な太陽の恵みを受け見事な果実が実っており、そのご苦労努力に敬服したところでした。この頃は、その人気高騰もあってか、鳥や獣の被害ばかりか人間による盗難被害もあつたとかで、油断の出来ない時代になったものです。

最後には、竹原地区の(株)農業開発様の、冷凍ブドウ加工工場を視察させていただきました。大人気のシャインマスカットを、マイナス数十度以下で冷凍包装して出荷するものです。希少時期に出荷販売できる取り組みとして期待される出荷形態と考えます。

さて、リングは三兄弟と言われるシナノスイート、秋映、シナノ

ゴールドが揃い市場で好評を得ていますし、ブドウもナガノパール、シャインマスカット、そしてクイーンルージュが本格的に市場へ出て、大粒で種がなく皮まで食べれてとても甘い、三種類が揃うことになりました。以前、販売業者の方が「見栄えも最高の状態にして買ってもらいたいので、是非とも赤系のブドウが欲しい」と言葉が記憶に残っています。

新しい商品の開発には長い歳月が必要ですが、それは消費者のニーズを常に把握し、それに応える商品を世に送り出していかなければなりません。今回はそれにかかわる皆さまの情熱を、強く感じられる研修視察となりました。